**レビー小体型認知症について**

１．レビー小体型認知症とは?

レビー小体という異常な構造物が脳の神経細胞に蓄積し，物忘れや実際にはないものがありありと見えたり，変動の大きい気持ちの不安定さ，動作の緩慢さや小刻みな歩行，血圧の変動による失神などがみられる認知症疾患です．

２．レビー小体とは?

　ドイツのレビーによりパーキンソン病の脳の神経細胞で発見された異常な構造物です．レビー小体型認知症では，脳の広い範囲の神経細胞にこのレビー小体が認められます．

３．レビー小体型認知症の症状と特徴

　１）中心となる症状

①動揺する認知機能障害

記憶の障害は比較的軽いのですが，段取りをつけること，注意力を維持すること，目の前のものの位置関係を知ることなどが苦手になります．これらの症状が，数分から数時間，ときには数日の単位で著しく動揺します．

②ありありとした幻視

現実的で詳しい内容を説明できる幻視が繰り返し現れます．幻視の内容は，人物(子供だったり亡くなった家族や友人)，小動物(犬，猫，蛇など)，虫などが家の中にいたり，体の近くにいたりします．

③パーキンソン病様の症状

表情が硬くなる．手足の振え．動作の緩慢さ．前かがみで小刻みな歩行．以上のような症状が初めからみられることも多くあります．

２）レビー小体型認知症に付随することのある症状

①睡眠時の異常な行動

眠っているときに鮮明で恐ろしい夢を見ることで，大声で叫んだり，手足を振り回すような異常な動作をすることがあります．

②抗精神病薬に過敏に反応

精神疾患に対する薬に過敏に反応し，パーキンソン病様の症状が悪化することがあります．

③著しい自律神経症状

立ち上がった時や食後に血圧が下がり失神することがあります．失禁や便秘がみられることもあります．

４．レビー小体型認知症の治療

いずれの治療薬も根本的に治療できる薬ではありません．また，進行を遅くする薬でもありません．症状を和らげる作用が中心です．

１）幻視，妄想などの精神症状や認知機能の動揺に対して

①アルツハイマー型認知症に対する薬

食欲不振，嘔吐，下痢などが現れることがまれにあります．

②非定型抗精神病薬：比較的新しい精神疾患に対する薬です．

眠気やパーキンソン病用症状の悪化がまれにあります．

③抑肝散(興奮や不穏に対して)

④抗うつ薬(気分の落ち込みに対して)

２）パーキンソン病様症状に対して

①抗パーキンソン病薬

中でもL-DOPAといわれる薬剤を少量から徐々に増量して使用します．それ以外の抗パーキンソン病薬は精神症状を悪くする恐れがあります．

３）立ち上がった時に血圧が低下することによる失神

①弾性ストッキングをはきます

②昇圧薬

４）睡眠時の異常な行動

①クロナゼパムというてんかんに対する薬を就寝前に少量使うことがあります．

５．レビー小体型認知症の経過

症状や経過は人により大いに異なりますので以下の経過は一例です．日常生活動作の制約や生命にかかわる状態に対しては，パーキンソン病様症状の進行の度合いが影響すると言えます．

１）病初期

①初めに現れるのは中心となる症状であったり，付随することのある症状であったり多様です．

②初めから認知症症状がある場合，パーキンソン病様症状から始まり認知症症状が1年以内に現れることが多いとされますが，1年以上たってから現れることもあります．

２）中等度進行期

①著しく動揺する認知機能障害が多く見られるようになります．

②動作が緩慢になり歩行もおぼつかなくなり姿勢が悪くなり転びやすくなります．

③幻覚や妄想などにより混乱が繰り返し見られます．

３）高度進行期

①寝たきりとなり，口からの食事摂取，排尿排便を自身で行うことが難しくなります．

②寝たきりの状態になりますと，肺炎や心不全などにより生命にかかわることがあります．

参考資料

１）日本認知症学会，編．認知症テキストブック

２）日本臨牀69巻増刊号10．認知症学(下)

　　　　　　　年　　　月　　　日

説明者　　　　　　 氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

説明を受けた方　 氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印